

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		ふりーくらぶ		公表日		2026年3月19日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		広く設定されている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切に配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもが安心して過ごせるよう、生活空間はわかりやすく構造化された環境作りを行っている。事業所内も特性に応じた環境作りを行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔に保てるよう清掃している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		場合に応じてクールダウンできる場所を確保している。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の支援や業務について、ミーティングや振り返りの場を通して職員間で共有し、課題の抽出や改善点の検討を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けのアンケート等を通じて、保護者からのご意見・ご要望を定期的に把握し、内容を職員間で共有し、改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングや日々のやり取りを通じて、職員の意見や気づきを把握する機会を設けており、その内容を業務の見直しや改善に活かしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		保護者向けの評価票やグループ内研修での相互評価での意見を取り入れている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修への参加や法人内研修の機会を確保している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		曜日ごとに支援プログラムを作成し、計画に基づいて活動を実施している。プログラム内容については、保護者面談等で周知している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者面談等で得た保護者や本人のニーズをもとにアセスメントを行い、日々の支援の中での子どもの様子から課題を整理したうえで支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員間で共有し、子どもの最善の利益を考慮して支援計画を作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を職員間で共有し、日々の支援の中で計画内容を意識した支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者から共有された発達検査等の結果を参考にするとともに、日々の支援の中での行動観察や記録によるインフォーマルなアセスメントを行い、子どもの適応行動の状況を把握している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援・家族支援・地域連携の視点を踏まえ、保護者面談や学校等との連携を通じて把握した内容をもとに、具体的な支援内容を支援計画に反映している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		曜日ごとの活動プログラムを基本としつつ、毎朝のミーティング等で話し合い、チームで活動内容を立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎朝のミーティングや先週実施した内容などを振り返り、内容が偏らないよう工夫している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動を基本とし、子どもの状況に応じて個別活動を組み合わせながら支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に職員間で情報共有を行い、当日の子どもの様子や配慮点を再確認した上で支援にあたっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		緊急性の高い事項（ケガ、トラブル等）は終了時に共有し、その他の内容については翌朝のミーティングで振り返りを行い、職員間で共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		朝ミーティングの内容を毎日記録し、支援の質の改善に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		子どもをよく理解している職員や児童発達支援管理責任者が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援との連携以外はつながりが希薄である。	相談支援や複数事業所を利用している利用者を軸に連携をとって支援を行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各機関と情報共有を行い、必要に応じて連絡調整を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		研修等は各員の必要に応じて受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園等で地域の子どもと交流する機会がある。	定期的・継続的な開催を行っている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時のやり取りやLINEを通して日頃から子どもの様子を保護者と共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要があれば、情報共有や紹介を行っている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		書面や面談等を通じて保護者に説明を行っている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談や送迎時のやり取りを通じて保護者から情報を得ており、その内容を支援計画の作成に反映している。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		同意を得た内容、目標を採用し、支援を行っている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時やLINE等を通じても保護者からの相談に応じて面談を行うなど、適切な助言や支援を行っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	定期的な保護者同士で交流できる機会を設けることはできていない。	要望等に応じて今後体制を整えていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情への対応体制を整え、迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	月一回の通信の発行を通して活動内容を報告するとともに、行事予定等についても定期的に配布し、保護者への情報発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の取り扱いが徹底している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	円滑に行えるよう、LINEや電話を活用し状況に応じた配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	プライバシーを気にする保護者様等もおられ、行っていない。	実施する場合は事前に同意を得られた利用者様に限る等、工夫する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	発生を想定した訓練を定期的に行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPを留意した上で、非常災害に備えた訓練や研修会を定期的実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	保護者等からしっかりと状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	保護者を介して主治医からの支援を得ている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	訓練や研修を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	安全計画の内容を利用開始時等に周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事例を職員間で共有し、再発防止に取り組んでいる。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止に関する資料を作成し、会社内研修を通して適切な対応ができるよう取り組んでいる。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束の基準を整備し、研修、事前説明・同意・計画記載を行っている。		